

順位	氏名（議席）	発言の要旨
6	伊東 美加（9）	1. 地域包括ケアシステムを支える地域拠点の構築について 少子高齢化や単身世帯の増加、家族構成の変化などに伴い、高齢者を取り巻く生活上の課題は、介護だけにとどまらず、医療、住まい、生活支援、認知症、孤独・孤立など、複数の分野にまたがるケースが増えています。 こうした中、住み慣れた地域で、できる限り自分らしい暮らしを続けていくためには、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいなどのサービスがそれぞれ独立して提供されるのではなく、地域の中で切れ目なくつながる地域包括ケアシステムの構築が重要です。 本市においても地域包括ケアシステムの構築が進められていますが、今後さらに高齢化が進む中では、それぞれの専門機関が個別に機能するだけでなく、地域の中に、医療・介護・福祉等の関係者が日常的につながり、必要な支援を早期に発見し、必要な専門職につなぎ、さらにはアウトリーチによって支援を届けることのできる地域の拠点が必要ではないかと考えます。 また、こうした拠点を新たに整備するのではなく、地域包括支援センターなど既存の地域拠点や公共施設を活用することで、地域の実情に応じた拠点を各地域に配置していく可能性もあるのではないかと考えます。 さらに、地域包括ケアシステムの構築を考える上では、介護サービスだけでなく、在宅医療を支える訪問診療や訪問看護などの医療機能が地域に根づいていることが不可欠です。 そこで、制度やサービスをつなぐという視点に加え、市民が暮らす地域そのものに、医療・介護・福祉・生活支援がつながる仕組みをどうつくるのかという視点から、以下のとおり伺います。 (1) 本市が現在進めている地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携について、これまでの成果と課題をどのように認識しているか伺います。 (2) 医療・介護・福祉等の関係機関が、個別のケースへの対応時だけでなく、日頃から顔の見える関係を構築し、地域における連携を促進するため、市としてどのような取組を行っているか。また、市が地域の関係機関をつなぐコーディネーターとして機能する必要性について、どのようにお考えか伺います。 (3) 日常生活圏域を、地域包括ケアシステムを展開する地域単位として捉え、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会、医療機関、訪問看護、介護サービス事業者、生活支援関係者等が連携できる地域拠点を設けることについてのお考えを伺います。 2. 地域医療の機能分化と連携について 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、生活を支える福祉の仕組みだけでなく、必要な医療を身近な地域で受けられる体制が不可欠です。 特に、高齢化が進む中では、急性期の治療を担う医療機関がその機能を十分に発揮するためにも、急性期治療を終えた患者を受け入れる回復期機能や、在宅復帰を支える医療・介護との連携が重要になります。 限られた医療資源を有効に活用し、救急医療を含む地域医療を持続可能なものとしていくためには、個々の医療機関の存続だけを考えるのではなく、地域全体として、それぞれの医療機関がどのような役割を担うのかを明確にしていくことが重要と考えます。 そこで、本市における今後の地域医療提供体制について伺います。 (1) 急性期、回復期、慢性期、在宅医療の役割分担について、市としてどの

順位	氏名（議席）	発言の要旨
6	伊東 美加（9）	ようにお考えか伺います。 (2) 急性期医療を担う市立中央病院と、他の医療機関との機能分化・連携をどのように進めているのか伺います。 (3) 現在、救急搬送され急性期治療を終えた患者を回復期等の医療機関へ円滑に移す、いわゆる下り搬送を受け入れる医療機関・病床は十分確保されていると認識しているか伺います。 (4) 急性期から回復期、在宅医療・介護まで切れ目のない医療提供体制を構築するため、本市として地域全体の医療機能の将来像を描き、関係する医療機関との協議を進めていくお考えはないか伺います。